

ミカンタイプのカンキツ新品種 無加温・少加温栽培にも適した「津之輝」

わが国では、カンキツ類の生産の大半は温州ミカンですが、温州ミカンの消費が減少する中、新たな特徴のある高品質で多様なカンキツ類が求められています。また、カンキツの施設栽培は温州ミカンを中心に行われていますが、燃料や農業資材の価格高騰等のため経営は不安定になっています。(独)農業・食品産業技術総合研究機構(農研機構)果樹研究所では、食味良好で食べやすく、生産コストの低い無加温・少加温施設栽培にも適したミカンタイプのカンキツ新品種「津之輝(つのががやき)」を育成したので、その概要を紹介します。

技術の概要

1. 1984年に果樹試験場口之津支場(現 農研機構果樹研究所カンキツ研究口之津拠点)において「(清見×興津早生)No.14」に「アンコール」を交雑して得られた実生から選抜しました。長崎県の口之津で育成され、果皮に光沢のあることから「津之輝」と命名されました。
2. 「津之輝」は、露地栽培で1月中旬～2月上旬に成熟するミカンタイプの品種で、果実重は平均180g程度です。果実の糖度は平均13%と高く、減酸は比較的早、「アンコール」に似た芳香があり食味は良好です。果皮は赤橙色で光沢があり、厚さは約3.0mmで薄く剥皮は容易です。果肉は濃橙色で柔らかく多汁で、じょうのう膜(袋の膜)は薄いので袋ごと食べられます(写真)。
3. 無加温・少加温栽培では12月上中旬に成熟し、250g程度の大果になります。糖度は13%以上です。
4. 単為結果性で、雄性不稔性を有し、他品種の花粉が受粉されなければ種無し果を結実します。浮皮の発生はありません。果肉には機能性成分として注目されるγ-クリプトキサンチンを高濃度に含有します。
5. 樹姿はやや直立性で、結実性、隔年結果性は中位です。そうか病およびかいよう病に対して強い抵抗性があります。カンキツトリステザウイルスによるステムピッチング(枝や幹の木質部に生じる溝)の発生は軽度です。



写真 「津之輝」の果実

活用面での留意点

1. 冬季の最低気温が-4℃以下にならない温暖なカンキツ栽培地域および施設栽培に適します。果実肥大期の過乾燥により裂果しやすいので過乾燥を避けます。
2. 苗木の市販は2年後位になります。その他、詳細については(独)農研機構果樹研究所カンキツ研究チーム(電話:0957-86-4494)にお問合せ下さい。

(農林公庫 技術参与 後藤 明彦)